

「横浜市ことぶき協働スペース」による シンポジウムを開催します

『横浜寿町～地域活動の社会史～』出版記念シンポジウム・・・3/4（土）
ことぶき協働フォーラム 2023・・・・・・・・・・・・・・・・・・3/11（土）

横浜市寿町健康福祉交流センター（中区寿町 4-14）2 階の「横浜市ことぶき協働スペース」。

寿地区住民の皆さん、地区内外の団体・事業者の皆さんとともに、寿地区のまちづくり・地域支援を目的に様々な事業を行う拠点として、横浜市と協働契約を締結した**特定非営利活動法人 横浜コミュニティデザイン・ラボ**が運営しています。



横浜市ことぶき協働スペースでは、そのときどきのテーマの下に毎年シンポジウムを開催していますが、令和2年度に開催した「ことぶき協働フォーラム 2020」において、寿地区で様々な活動に携わった方々が30数年ぶりに再会されたことをきっかけに「**寿歴史研究会**」が発足。ご自身の体験や地域の資料を基に、会の皆さんが執筆された寿地区の地域活動の歩みは、『**横浜寿町～地域活動の社会史～**』上下巻として刊行されました。

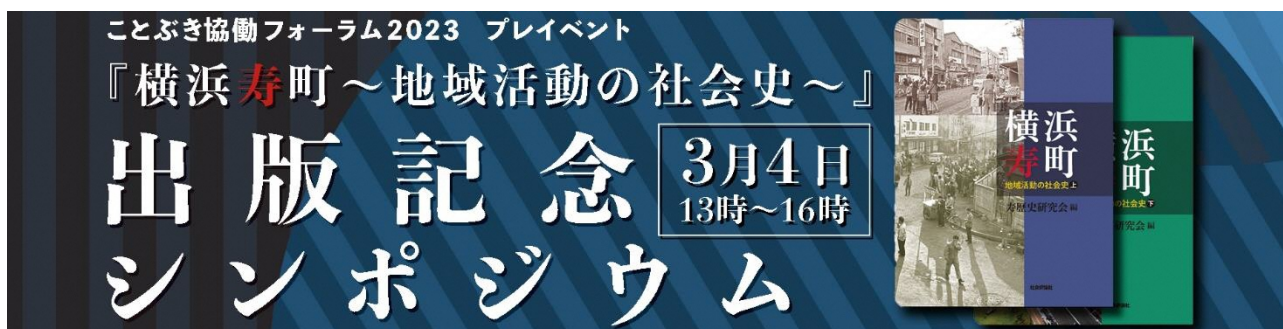
これを記念したシンポジウムが、横浜市ことぶき協働スペースと寿歴史研究会との共催により開催されます（オンラインとリアル会場）。

翌週には「ことぶき協働フォーラム 2023」も開催。あわせて、ぜひご参加ください。

詳しくは次ページを
ご覧ください

『横浜寿町 ～地域活動の社会史～』の 出版記念シンポジウム を 開催します！

開所からまもなく4年を迎える横浜市ことぶき協働スペースは、今年度も「ことぶき協働フォーラム2023」を開催します。フォーラムのイベントとして、寿歴史研究会との共催により刊行された『横浜寿町 ～地域活動の社会史～』の出版記念シンポジウムを開催します。



戦争をとめられない世界。居場所を失い困窮する社会。生命を大切にしようとする人間の営みのなかで生きる権利を奪う歴史が繰り返されてきました。私たちは未来に向けて何を目指していくのか。戦後77年、経済成長や労働環境は私たちの暮らしを支える一方で、多難な危機を生み、市民の連帯や官民の協働が進みました。寿歴史研究会は2年をかけて横浜・寿町の地域活動を社会史として編んできました。通史を俯瞰する出版の試みをとおして問い続けた、これからの社会づくりや協働の視座を共有します。

【記念講演】

■登壇者：炭谷 茂（ソーシャルファームジャパン理事長）

■テーマ：『日本社会の構造編変化と課題 ～寿町の歴史を踏まえ～』

図書の推薦文を執筆され、日本の社会保障制度の基盤づくりを担ってこられた炭谷茂さんが、寿町の地域活動史を背景に、社会の構造と課題を語ります。

【図書紹介～対談】

本書刊行の社会的意味を寿歴史研究会を代表して、加藤彰彦（筆名：野本三吉）さんが解説し、「寿から社会へ伝えたいこと」をテーマにゲストと対談します。

■司会：加藤 彰彦（寿歴史研究会代表）

■登壇者：浅井 光代（NPO 法人東京断酒新生会）

「寿の暮らしで学んだこと、寿を出て思うこと」

：高沢 幸男（寿支援者交流会）

「流動する下層とは、古くて新しい問題」

：村田 由夫（寿地区自治会）

「『人間交差点・寿』が教えてくれたこと」

：渡辺 英俊（寿・外国人出稼ぎ労働者と連帯する会 通称“カラバオの会”）

「いのちの灯をともし続ける地域連帯の歩み」



『横浜寿町～地域活動の社会史～』 寿歴史研究会編著 社会評論社刊

「ことぶき協働フォーラム2020」で30数年ぶりに再会した地域活動の担い手が意気投合し、2021年4月に「寿歴史研究会」が始動。横浜市の元職員、寿町の史実や文化を研究する大学教授、作家などが加わり、月1回開催。1945年から現在までの寿地区の地域活動の歩みを、当事者自身の体験や地域の資料を基に18人が執筆した。
(上巻：2022年12月刊行、下巻：2023年1月刊行)

【登壇者略歴】

■炭谷 茂（ソーシャルファームジャパン理事長）



1969年東京大学法学部卒業後厚生省（当時）に入る。厚生省社会・援護局長等を経て2003年環境事務次官に就任、2006年退任。現在ソーシャルファームジャパン理事長、恩賜財団済生会理事長、日本障害者リハビリテーション協会会長、中国残留孤児援護基金理事長、富山国際大学客員教授等を務める。かねてより障害者、引きこもりの若者、刑余者等の就労支援やまちづくりなど社会貢献活動に従事。主な著書に「私の人権行政論」（解放出版社2007年）、「社会福祉の原理と課題」（社会保険研究所、2004年）。

■加藤 彰彦（寿歴史研究会代表）



1972年から10年間、寿生活館に勤務。寿に暮らし日雇労働者と対話する中で「寿夜間学校」「寿識字学校」の開校、「寿住民懇談会」結成に尽力。寿の人々との交流は、筆名・野本三吉著『風の自叙伝』『裸の原始人たち』『寿生活館ノートー職場奪還への遠い道』『野本三吉 個人誌 生活者』に詳しい。小学校教員、児童相談所ケースワーカー、大学教授などをとおして「子ども研究」「共生のつながり」を求め実践し、沖縄大学では学長を務めた。現在、田谷長生会（老人会）を運営。2018年に『まちに暮らしたるの種子を蒔く』刊。

【開催概要】

■日時：2023年3月4日（土） 13:00～16:00

■会場：オンライン参加、もしくはリアル会場参加
※リアル会場：自治労横浜会館
（横浜市中区寿町4-15-5）

■定員：オンライン参加：なし
リアル会場参加：60名
※定員に達した場合はオンラインとなります

■費用：無料

■申込：ことぶき協働スペースのウェブサイトから ※〆切：3月2日（木）

■主催：寿歴史研究会（共催：横浜市ことぶき協働スペース）



翌週3/11（土）は、「ことぶき協働フォーラム2023」を開催いたします！

参加無料 オンライン配信 (ZOOM)
3月11日(土) 13:00～16:00
インクルーシブ社会を目指して
～寿町の地域活動に学ぶ、社会づくりの原型～
ことぶき協働フォーラム2023

寿町が大切にしてきた連帯の実践に学ぶ対話プログラム。トークセッション「労働と福祉～政策のはざままで揺れ動く人々～」及び対談「人権と市民社会～互いの尊厳と連帯に根差した社会を目指して～」をとおして、活動当事者の思いを分かち合い、「共に生きる」社会づくりを考えます。

お問合せ先

（ことぶき協働スペースの事業委託に関すること）

健康福祉局生活支援課援護対策担当課長 遠藤 寿彦 Tel 045-671-2374

（ことぶき協働スペースが行う各種事業に関すること）

ことぶき協働スペース施設長 徳永 緑 Tel 045-323-9019

横浜市ことぶき協働スペース（寿歴史研究会事務局）

【住所】〒231-0026 横浜市中区寿町4-14 横浜市寿町健康福祉交流センター2F

【TEL】045-323-9019

【FAX】045-323-9079

【開館】（月）～（金）

【MAIL】kotobuki@yokohamalab.jp 【URL】https://kotobuki.space

9～17時

